

隨泉寺寺報

平成 20 年 (2008 年) 9 月号 第 457 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季彼岸会法座

講師 光教坊 副住職 石山成之師

講題 『カナダでの生活』

『おがんでたすけてもらわない

おがまれてくださる如来さまよ』 有福の善太郎

「そのまんまでいいよ。私にまかせなさい。」と呼びかけてくださる如来さまの声に、素直にうなずけないこの私です。お聴聞を重ねながらも、ついつい自らの行いを誇り、如来さまの願いに背いて生きる私を、如来さまは大きなお慈悲で、どこまでも変わることなく包み込んでいてくださるのです。

【有福の善太郎】 天明 2 年 (1782) 10 月、現在の島根県浜田市下有福町の農家に生まれる。4 歳で母キヨと死したことからか、若い頃は暗くすさんだ日々を送り、村人からは「毛虫の悪太郎」と嫌われ相手にされなかった。善太郎 30～41 才の間に、愛児 4 人を次々と失うという深い悲しみに出会う。そのことが機縁となり、いのちがけで法を求める。念仏者「有福の善太郎」としての新しい人生が始まる。

9 月の法座予定

- 9 月 7 日……………掃除 荒野
- 9 月 14 日昼席午後 1 時より……………秋季彼岸会法座
- 9 月 14 日夜席午後 7 時より……………出張法座 荒野集会所
- 9 月 15 日朝席午前 10 時より……………主婦の集い おとき
- 9 月 15 日昼席午後 1 時より……………秋季彼岸会法座
- 9 月 16 日午前 9 時より……………灯茶会準備
- 9 月 23 日午後 19 時半より……………灯茶会
- 9 月 30 日午前 7 時集合……………研修旅行
- 10 月 2 日午後 6 時より……………門信徒会本部役員会

☆研修旅行

9 月 30 日 (火) に研修旅行に行きましょう。

先月お知らせしました研修旅行を行います。木次というところは奥出雲のなかなか歴史のある 白いところ。まだ申し込んでおられない方は早めに申し出てください。

☆灯茶会 9 月 23 日 (火) 午後 7 時半～

今年も 9 月 23 日午後 7 時半から灯茶会を行います。去年は本堂の裏の竹を切っていただき、竹の灯籠を 100 個作って境内に火を灯しました。今年も去年以上の灯籠を作りたいと思っています。山門からの灯りの列はなかなか素晴らしいもので、本堂がうっすら浮かび幻想的です。誘い合わせて参加してください。又、虫の声も盛んでゆっくりと虫の声に耳を澄ますというのも、貴重な時間だと思います。

☆ 灯茶会の準備を 9 月 16 日 (火) 午前 9 時より行います。裏山の竹を切って灯籠を作りたいと思います。お手伝いができる方はよろしく願いいたします。

☆主婦の集い 9 月 15 日 (土) 午前 10 時～

今回の御講師は熊野の光教坊の副住職 石山成之師です。石山成之師は長年開教師としてカナダに赴任しておられました。カナダでも浄土真宗のご門徒の人々が沢山おられます。カナダでの生活や布教の様子も聞けるとおもいます。楽しみにお参り下さい。

☆おめでとうございます。

平原東の平原 雅子さんは明治 42 年 02 月 08 日生まれの 99 歳です。今年数え年で 100 歳になられるので、広島市からお祝いをしてもらわれます。現在も大変お元気で、庭の草取りや、庭木の水やりなどを行っておられます。平原さんは先生をしておられたお父さんの勤務先の宮島で誕生されたそうで、2～3 年前まで毎年正月には宮島に初詣をしておられました。今年も原爆忌には平和公園にお参りに行かれたそうです。毎月の月忌の時は必ず後ろに座って一緒にお勤めをされます。



元気で長生きしてください。

☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 恒松 明江殿 故 恒松 キヨ子様 特 永代経志として

☆御礼

特 懇志 金 貳拾萬円 馬場 勝博殿

『じいちゃんありがとう』 原 龍太郎

突然じいちゃんが逝ってしまった。
「龍太郎行って帰り。早よ帰れよ。」



日展作家
原 瑞雲 先生

毎朝大きな声と握手で送り出してくれたじいちゃん。
「龍太郎。龍太郎。」と自分のこと以上に気に掛けてくれたじいちゃん。
一番の理解者であり、一番の味方、一番の親友のような存在だった。明るくヤンチャで、口が悪いといさめたが、家族の太陽のような存在でもあった。家族の中心はじいちゃんだった。

私が小学6年生の時、算数が苦手で、テストで20点を取った。さすがに悪い点だと思い、親に見せる前にじいちゃんに見せた。

「じいちゃん何て言うかな。」

内心ドキドキしていたが、じいちゃんが言った一言は以外なものだった。「おい10点よりええ点じゃないか。気にすなや。元気が一番じや。分らんかったらわしが教えちやるわい。」

それから何度悪い点を取ったかは分からないが、勉強のことで怒られたことは一度もない。

おかげで、勉強をやらされたこともないし、怒られたこともない。

中学校では、反抗期を迎えた。口が悪くなり、態度も悪くなった。勉強の方もやる気がなくなり、英語では、6点を取ったりした。

じいちゃんも色々言いたいことはあったと思うが、ここでも怒ることはなく、「龍太郎は優しい子じゃ。龍太郎はあいさつをよくする子じゃ。」とほめてくれた。じいちゃんはここでも味方でいてくれた。多感な時期で、色々な衝突もあったが、安心できる場所があった。

やがて中学3年生の時の担任の先生の影響で、教師を目指すようになった私は、高校、大学へと進んだ。大学に進んでからは、教員採用試験合格を目標として日々を過ごした。2年生の時から始めた試験勉強は、決して楽なものではなかった。苦しい時もあったが、投げ出す気にはならなかった。合格して教員になりたいという気持ちはあったが、応援してくれているじいちゃんに合格を見せたいという気持ちもあったからだ。

4年生になり、採用試験の合格 知が来た時、一番にじいちゃんに見せた。じいちゃんは、涙を流して喜んでくれた。

突然逝ってしまったじいちゃん。難しくないと言われた手術で逝ってしまったじいちゃん。まさかここで逝ってしまうとは思ってもいなかった。まだまだ話したいこともあるのに。夏には宮崎に旅行に行こうと予定まで立てていたのに。

そして何よりも、「今まで育ててくれてありがとう。」の一言。生前は、恥ずかしくて言えなかった一言が、一番の心残り涙が止まらなかった。涙は、枯れることがなかった。じいちゃんの亡骸と過ごした二晩は、じいちゃんに色々話しかけた。今までのこと。そして、これからのこと。今まで恥ずかしくて言えなかった「ありがとう。」を何度も言った。じいちゃんは何も答えてくれなかったが、その顔が笑ってうなづいてくれているようで、涙が溢れ出た。

「わしはほんまに幸せじゃわ。みんなよくしてくれるし、龍太郎はいい子に育ったし、ほんま幸せじゃわ。」、生前何度も言っていた言葉を思い出して、そこに救いを求めた。

じいちゃんの 夜と葬式にはたくさんの方が来てくださった。書道関係も多かったが、それ以外にも多方 から来てくださった。あらためて、じいちゃんの偉大さを知った。自分の名刺に肩書きを入れることもなく、えらぶらず、人を大切にしていたじいちゃんの人柄なんだと思った。

じいちゃんが生前言っていた「わしが死んだら、ばあちゃん頼むで。」という言葉を噛みしめ、今ばあちゃんと一緒に暮らしている。じいちゃんも自分を支えてくれたばあちゃんに感謝していたが、じいちゃんも恥ずかしくて、ばあちゃんには、「ありがとう。」が言えなかったみたいである。

ありがとうという言葉の大切さ。そして、身近な人であるほど、言うことが難しいということをじいちゃんの死を して教えてもらった気がする。

今小学校教諭として、2年目を迎えている。自分の力の無さに落ち込むこともあるが、子どもに元気をもらうことも多い日々である。じいちゃんが亡くなってから、人の死や人生について考えることが多くなった。一度きりの人生であれば、自分の命を精一杯生きること。そして、人を大切にすること。じいちゃんから本当に大切なことを教わった。これからも、じいちゃんと過ごした23年間の思い出と、この体に流れる大好きなじいちゃんの血を誇りとして、堂々と生きていきたい。

じいちゃん

「本当にありがとう。じいちゃんの孫として生まれてきて幸せでした。ばあちゃんのごことは俺に任せて、お浄土から家族を見守ってください。」

合掌
院号法名 浄貢院釋瑞雲 俗名 西川 貢(原 瑞雲) 平成20年4月23日往生



☆感謝状を頂きました。

社会福祉法人 安芸の郷 から随泉寺仏教婦人会に長年ダーナの募金を贈っていたので、それに対して感謝状を頂きました。
安芸の郷は障害を持っておられる方の作業所です。

